

出題番号	問題番号	問題文	正答	text ポイント	配点	図
		選択肢 1				
		選択肢 2				
		選択肢 3				
13	18	売価還元法で原価率（粗利益率）を求めるために必要な数値は何か。 期末在庫額(原価) 期中仕入額(売価) 期首在庫額(原価)	3	36	1	
23	19	不明ロス率を求めるために必要な数値は何か。 期首在庫額(原価) 粗利益率 期首在庫額(売価)	3	36	1	
33	20	原価率がわかれば粗利益率が求められるというが、その理由は何か。 原価率と粗利益率は比例しているから 原価率を粗利益率で割ると100%になるから 原価率と粗利益率の合計が100%だから	3	37	1	
43	21	次の表で示された原価率はいくらか。 65.7% 68.2% 71.7%	3	37	3	○
53	22	次の表で示された粗利益高はいくらか。 3360 4108 3482	3	37	3	○
63	23	次の表で示された不明ロス率はいくらか。 0.8% 0.7% 0.9%	3	37	3	○
73	24	ある企業の営業利益率が3%でロス率が0.5%、そして営業利益高が4800万円であった。ロス率が0.5%から0.4%に改善できたとすると営業利益高は、どれだけ増えるか。ただし、売上高、販売管理費などの数値は変わらないものとする。 280万円 300万円 160万円	3	41	3	
4	25	ロスはいくつかの特徴を持つ特異なコストである。その特徴とは何か。 企業が自らの意思で支出したコストではなく、ロスを削減できれば、削減できたロス額分だけ売上増と同じ価値がある	3	41	1	
14	26	業績の改善（利益増）のために行うべきことについて正しい説明はどれか。 売上を伸ばすことよりもロスの予防を最優先して利益率を高める努力をすべきである 「売上はすべてを癒す」という言葉にある通り、小売業は売上、すなわち顧客の支持を得ることが最重要であり、それを実現することで利益は後からついてくるものである	3	42	1	
24	27	日本リテイリングセンターのロス率についての企業調査結果の説明で正しいものはどれか。 98社の平均ロス率は0.57%でそれを下回っているのはS M（スーパーマーケット）、DgS（ドラッグストア）と生協である	3	補3/51	1	
34	28	日本リテイリングセンターの不明ロス率の推定実施状況についての企業調査結果の説明で正しいものはどれか。 実施しているのは過半数をやや超える ほとんどの企業が実施している 実施しているのは30%に満たない	3	補3/51	1	
44	29	ロス分配率について2%以下のものをA、2~7%のものをB、7%以上のものをCとして、A、B、Cはそれぞれいくつあるか。 A 0、B 1、C 2 A 1、B 2、C 0 A 1、B 1、C 1	3	補4/51	3	○
54	30	店舗全体のロス率を下げるためには、最も影響力（ロス高）が大きい部門を中心に取り組むことが効果的である。それでは、表の中で最もロス高が大きい部門はどれか。 A C D	3	補5/51	3	○

(Q 2 1 出題順 4 3)

実際の設問では異なる表が表示されていたため、無効（全員正解）とした。

項目	数値
期首在庫高（原価）	18,000
期中仕入高（原価）	68,000
期中売上高（売価）	95,000
期末在庫高（売価）	25,000
期中売上高（原価）	?
原価率	71.7%
粗利益高	?
粗利益率	?

(Q 2 2 出題順 5 3)

実際の問題では、小数点第一位を四捨五入せよ（ただし、原価率、粗利益率を小数点第三位で四捨五入し小数点第二位として求めること：四捨五入する桁数によって数値が多少異なるため）  
選択肢の3,482は、小数点の四捨五入が原価率、粗利益率を小数点第二位で四捨五入し小数点第一位として計算した場合のものであった誤りがあったため無効（全員正解）とした

項目	数値
期首在庫高（原価）	3,500
期中仕入高（原価）	12,500
期中売上高（売価）	16,500
期末在庫高（売価）	4,400
期中売上高（原価）	?
原価率	?
粗利益高	?
粗利益率	?

原価率 = (3,500 + 12,500) ÷ (16,500 + 4,400)  
= 78.947（小数点第三位を四捨五入して78.95）  
粗利益率 = 21.05%  
16,500 × 21.05% = 3,473.2（四捨五入して3,473）  
原価率 = (3,500 + 12,500) ÷ (16,500 + 4,400)  
= 78.947（小数点第二位を四捨五入して78.9）  
粗利益率 = 21.1%  
16,500 × 21.1% = 3,481.5（四捨五入して3,482）

(Q30出題順54)

(Q 2 9 出題順 4 4)

売上高	粗利益高	粗利益率	ロス高	ロス率
10,000	4,000	40.0%	200	2.0%
	2,800	25.5%	200	1.8%
27,000	11,000	40.7%	200	0.7%

5.0%  
7.1%  
1.8%

(Q23出題順63)

部門	売上高	構成比	ロス高	ロス率
A	3,500	8.9%	120	3.43%
B	5,000	12.7%	100	2.00%
C	5,000	12.7%	90	1.80%
D	13,000	32.9%	220	1.69%
E	13,000	32.9%	200	1.54%
Total	39,500	100.0%	730	1.85%

項目	数値
期首在庫高（売価）	5,500
期中仕入高（売価）	49,000
期中売上高（売価）	50,000
原価率	70.0%
値下・廃棄額	50
期末在庫高（売価）	4,000
あるべき在庫高（売価）	?
不明ロス高	?
不明ロス率	0.9%
期末在庫高（原価）	?

4,450  
450  
0.90%

64	31	現状の全体のロス率を2.0%を1.5%にする目標とした。AとBは売上構成比が低く、全体の改善に寄与する部分は小さいので、現状そのままとしC、D、E部門の改善に取り組むことにした。C部門はロス率の目標を1.6%、E部門は1.2%とした。全体の目標を達成するためにはD部門のロス率はいくらにしなければならぬか。 0.8% 0.6% 1.0%	3	補5/51	3	
74	32	逆ロスが発生する原因についての説明で正しいのはどれか。 あるべき在庫よりも実地棚卸の結果の在庫の方が多くなってしまった状態で、その原因はともかく利益に貢献しているので問題視することはない	3	53	1	